

世界のトレーナー ワールドカップとJリーグ

妻木充法

東京メディカルスポーツ専門学校
ジェフユナイテッド市原千葉

1. はじめに

近年、スポーツにいわゆるトレーナーがかかせない存在となっている。アスリートを少しでもいいコンディションにする、またケガから早くスポーツに復帰するため、トレーナーは、さまざまな治療や運動指導を行う。しかし、国によって、トレーナーの名称、資格、業務などは、異なるようである。筆者は、1979年から日本代表サッカーチーム、ドイツブンデスリーガ、Jリーグ(図1)などでトレーナー活動をしてきた。そこで、JリーグやFIFAでのトレーナー活動そして、海外のサッカーチーム視察を踏まえ、世界の12カ国のトレーナーについて概観してみたい。

2. 日本 Jリーグ

日本では、1993年にJリーグが開幕したが、それ以前は、アマチュアのリーグ(JSL日本サッカーリーグ)だった。

当時のトレーナーの業務は、シンプルで、疲労回復のマッサージ、鍼治療、テーピング、簡単なリハビリ程度だった。しかし、プロのJリーグができた時に、大きくトレーナーの仕事が変わった。Jリーグ規約で、チーム医療のさまざまなことが規定された。たとえば、専属の日本の医師免許を持つ医師がいることや健康管理の責任がその医師にあることが明言され、ドーピングコントロールも始まった。トレーナーは、人数も1名から3名程度に増員された。Jリーグ



図1 ジェフユナイテッド市原千葉

1993年Jリーグ開幕

の過密日程のためか、疲労の蓄積、傷害の増加、夏場のパフォーマンスの低下などの多くの問題が発生した。そこで、トレーナーにマッサージや治療のほか、傷害の予防対策や体力測定、食事のコントロールやサプリメントの検討なども求められるようになった。

2010年には、Jリーグのトレーナー数は、180名だった。保有資格は、鍼灸師がもっとも多く、111名(62%)で、ついであん摩マッサージ指圧師が78名(43%)、日本体育協会公認アスレティックトレーナーが61名(34%)だった。ついで、柔道整復師31名(17%)、理学療法士(PT)が27名(15%)である。なお、上記のアスレティックトレーナーは、医療資格ではない。日本体育協会公認ということで、業務は、①予防と応急処置、②アスレティックリハビリテーション、③コンディショニング、④体力測定と評価、⑤健康管理と組織運営、⑥教育的指導と規定され、トレーナーは、日体協ATと医療資格と両方持っている者が多い。

結局、Jリーグのトレーナーに関しては、日体協アスレティックトレーナー資格も保有すべきであろうが、人数は、圧倒的に鍼灸師が多いといえる。

Jリーグトレーナーの保有資格2010年

J1, J2 合計180名中*

* 常勤 144名、非常勤36名

資格	人数	%
鍼灸師	111名	62%
あんまマッサージ指圧師	78名	43%
日本体育協会公認アスレティックトレーナー	61名	34%
柔道整復師	31名	17%
理学療法士	27名	15%

Jリーグトレーナー会長 和田氏より

図2 Jリーグトレーナーの保有資格2010年

3. アジア 韓国

韓国は、アジアで初めてプロリーグを始めた国である。2006年にソウル近郊の5つのKリーグクラブを見学した(ソウルFCや富川FCなど)。テーピング、マッサージ、リハビリなどを行っていた。クラブには、それぞれトレーナーが2名いた。呼称は、トレーナーあるいは、PT(理学療法士)で、所有資格名で呼ぶ。韓国代表チームのトレーナーによると(彼は、理学療法士)、トレーナーの資格は、KATA(韓国アスレティックトレーナー協会)が3分の2ほど、PT(理学療法士)が3分の1位という。民間資格は、いろいろあるが不明とのことである。鍼治療は、トレーナーが行っているチームもあるが、韓医師の資格ではないようだ。

4. 中東アラブ首長国連邦

中東のアラブ首長国連邦は、2009年、2010年とクラブW杯で現地のトレーナーとFIFAレフェリーのメディカルサポートをした。この国は、イスラム教で、油田があるためきわめて裕福な国である。2名のトレーナーの資格は、理学療法士なので、フィジオ(PT)と呼んだ。ところが彼らは、スーダンとトルコからの出稼ぎで、U.A.E.のクリニックで働いていた。業務は、鍼治療をしないことを除けば、ほぼ日本と同じであった。なお、サッカーチームにも他国からのトレーナー(PT)が行っていると聞いた。

5. ヨーロッパ ドイツ

1988年筆者は、ドイツのベルダーブレーメンと言うブンデスリーガのチームにいたことがあった。このチームには、トレーナーが1名で、マッサージ、テーピング、応

急処置、簡単なリハビリを行っていた。筆者は、彼のアシスタントを行った。資格は、マッサージ師なので、マッサージと呼ばれた。ドイツでは、監督をトレーナーと呼ぶ。

2014年筆者は、ブレーメンに視察に行った。2年前より、日本人の鍼灸師がトレーナーとして在籍していたからである。トレーナーは、5名に増えていた。トレーナー業務は、多岐に渡っていた。マッサージ、テーピング、応急処置は、当然であるが、傷害の管理やスケジューリング、専門的なリハビリ、鍼治療などを業務としていた。資格は、3名が理学療法士(スポーツPT)、マッサージ師が1名、そして、鍼灸師1名である。ブレーメン以外でも鍼治療は、医師が行っているチームと日本人鍼灸師がいるチームがあるという。

スポーツPTとは、理学療法士がスポーツフィジオセラピーの講習を受け認定された名称である。いわば、日体協アスレティックトレーナーや、USAのATC(Athletic Trainer Certified)のようなものである。目的は、①傷害の予防、②応急処置、③リハビリ、④パフォーマンスの向上、⑤選手教育とされている。世界組織IFSPT(International Federation of Sports Physio Therapy)があり、アスレティックトレーナーの世界組織WFATT(World

Federation of Athletic Training and Therapy)と類似している。ただ、スポーツPTは、基本的に各国の理学療法士協会の下部組織である。

6. ヨーロッパ イギリス

1999年のアンケート調査によると、イギリスプレミアリーグ20クラブのうち、13チームから回答があり、そのうち7クラブが鍼治療を行っていた。施術者は、チームの理学療法士、医師、外部の鍼灸師であった。

2012年ロンドンオリンピックでのFIFAレフェリーへのトレーナー活動で、イギリス人のトレーナー5名と仕事をした。そのうち、3名が理学療法士(PT)で、鍼認定資格を持っていた。1名がスポーツマッサージ師、残る1名がフィジカルインストラクターだった。多くの理学療法士が鍼治療の認定を受けている。理由は、理学療法士は、180時間の講習で鍼認定資格が授与される、つまりほぼ3カ月の受講でOKだからである。アフリカの項で述べるが、南アフリカはさらに簡単である。業務は、日本とほぼ同様である。

2014年プレミア2部のワットフォードクラブを視察した。このチームのトレーナー(フィジオと呼ぶ)は、5名で、資格は、チーフがオステオパス、理学療法士(PT)3名うち、スポーツPT1名、そして鍼灸師(日本)1名だった。鍼灸師は、筆者の学校の卒業生なので、視察が可能だった。業務内容は、日本と同様であるが、手技療法が多いという印象だった。

イギリスは、ほぼ理学療法士がトレーナー活動を行い、鍼治療(ドライニードリング)も行っている。

世界組織 IFSPT とWFATT

- ▶ **IFSPT** :スポーツ理学療法士(SPT)
International Federation of Sports Physical Therapy
2000年に設立 ヨーロッパ中心 20カ国
WCPTの下部組織
World Confederation for Physical Therapy
- ▶ **WFATT**: アスレティックトレーナー(AT)
World Federation of Athletic Training and Therapy
アメリカとカナダ中心 2000年末に設立
9カ国19団体

図3 IFSPT と WFATT について



図4 治療するイギリスのフィジオ (理学療法士)

7. ヨーロッパ フランス

フランスもリーグアンというプロサッカーリーグが盛んである。2007年パリにあるパリサンジェルマン PSV クラブを視察した。トレーナーは、4名で3名が理学療法士 (PT) で、1名がオステオパスであった。フランスでは、トレーナーをキネと呼ぶ。鍼治療は、外部から週1回オステオパスがきて施術するという。フランスの法律では、鍼治療は、医師と助産婦のみに資格が与えられるが、厳密には、違法だが7000名ほど行っているようだ。

8. 北米 U.S.A.

トレーナーは、(厳密には、アスレティックトレーナー)アメリカが発祥の地である。日本からもトレーナーにあこがれてアメリカの大学に入学すると聞く。実際、スポーツ現場 (特に大学や高校) では、公認アスレティックトレーナー(ATC)が働いている。もちろん、プロチームもそうだ。理学療法士(PT)は、病院、クリニックに所属している。ちなみに学歴、年収では、ATCとPTでは、かなり開きがある。インターネットの occupational outlook handbook によると、ATCは、大学卒程度で年収が41600ドル前後、PTは、大学院博士程度で、年

収が76310ドル前後となる。現在、ボイシ州立大学の研究員の泉氏によると、メジャーリーグサッカー (MLS) では、各チームでトレーナーは、ATCが2名プラスインターン1名という構成という。そして、業務も日本とは若干異なり、傷害予防プログラム、応急処置からリハビリ、チーム医療保険の事務処理などが主な業務である。鍼治療は、行わず、外部の鍼灸やカイロの治療院を紹介するという。

9. 南米 コロンビア

2013年U-20ワールドカップがボゴダで開催され、筆者もコロンビアのトレーナーと共に、レフェリーへのトレーナー活動を行った。4名のトレーナーは、理学療法士が2名 (クリニック勤務)、マッサージ師1名 (開業)、キネシオロジスト1名 (ユースチーム所属) であった。コストの関係で理学療法士がサッカーチームにまだあまりいないようであった。鍼治療は、行っていない気配はなかった。

10. 南米 ブラジル

2013年コンフェデ杯、2014年ワールドカップと2回に渡って、ブラジルのトレーナー (フィジオあるいはマッサージと呼ぶ) 4名とFIFAレフェリーのトレーナー活動を行った。われわれは、理学療法士だけだったが、サッカークラブには、理学療法士とマッサージ師がいるという。疲労回復のマッサージは、マッサージ師が担当し、ケガの治療、リハビリは、理学療法士が行うようである。鍼治療は、ブラジルでは、盛んだが、筆者の知るトレーナー (フィジオ) は、行っていなかった。業務は、鍼治療を除けば、日本と同様である。

11. 南アフリカ、エジプト、ナイジェリア

南アフリカでは、2009年コンフェデ杯、2010年ワールド杯とFIFAレフェリーのメディカルサポートを行った。南アフリカは、スポーツ医学が盛んな国である。レフェリーのトレーナーを共に行ったのは、すべて、理学療法士(PT)3名で、1名がスポーツPTであった。マッサージ師もいるはずだが、仕事をする機会はなかった。業務は、やはり日本と同様であるが、理学療法士が鍼治療を行うのは、簡単である。なぜなら、わずか1日の講習で理学療法士は、鍼の認定資格が得られるそうである。トリガーポイントに鍼で刺激を加えるのである。物理療法の一つという認識だろう。

エジプトは、2009年にカイロでU-20ワールド杯、ナイジェリアは、同年ボゴダでU-17ワールド杯が開催され、レフェリーへのトレーナー活動を現地のトレーナーと行った。エジプトで携わったトレーナーは、自称 理学療法士と言ったが、資格は、最後まで不明だった。ナイジェリアのトレーナーも資格は不明だった。業務は、マッサージとケガの応急処置を行っていた。サッカークラブに関しては、不明である。

12. 終りに

現在、スポーツ医学の注目は、治療から予防に移っている。プロサッカークラブの

トレーナーは、医師と共に高度のレベルの医療を行うため、ヨーロッパのサッカーリーグの規約では、練習、試合に理学療法士の帯同が義務付けられている。日本及びアジア各国にもアジアサッカー連盟から通達が出され、理学療法士がクラブに義務づけられた。しかし、日本では、鍼灸師、柔道整復師など理学療法士以外の伝統ある医療資格が優勢であるため、Jリーグ規約には、理学療法士、鍼灸師、あ指マッサージ師、柔道整復師、日本体育協会公認アスレティックトレーナーと書かれている(図5)。

結局、トレーナーの資格に関して、日本の多様な資格とU.S.A.の公認アスレティックトレーナー(ATC)は、理学療法士が優位の世界のサッカーからは、特殊な状況と言える。

リーグの規約では、PTが義務化されている

ドイツ イギリス	理学療法士(フィジオ) 試合1名 義務
フランス	理学療法士(キネ) 練習、試合2名 義務
アメリカ	NATA (ATC) アスレティックトレーナー 練習、試合 1名 義務
日本	理学療法士 クラブ勤務 義務 (理学療法士、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師、日体協アスレティックトレーナー)

図5 各国の理学療法士の義務化状況